

# 鹿島灘周辺に見られる海食地形と地質条件

磯部 一 洋 (環境地質部)

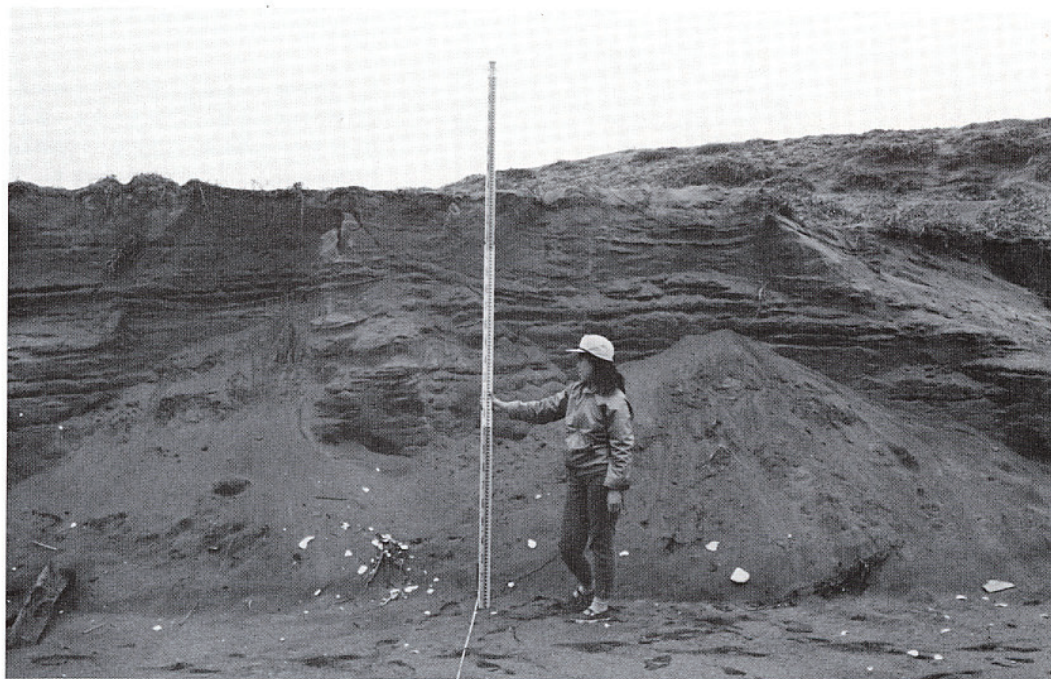
Ichiyo ISOBE

未固結の砂からなる砂浜海岸では その時々波浪などに対応し 砂浜が前進ないし後退しています。侵食に伴って一時的に出現する小崖も急速に平滑にされ やがて消失します。

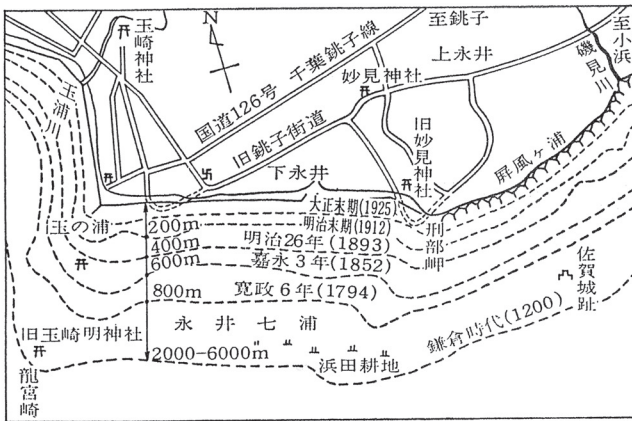
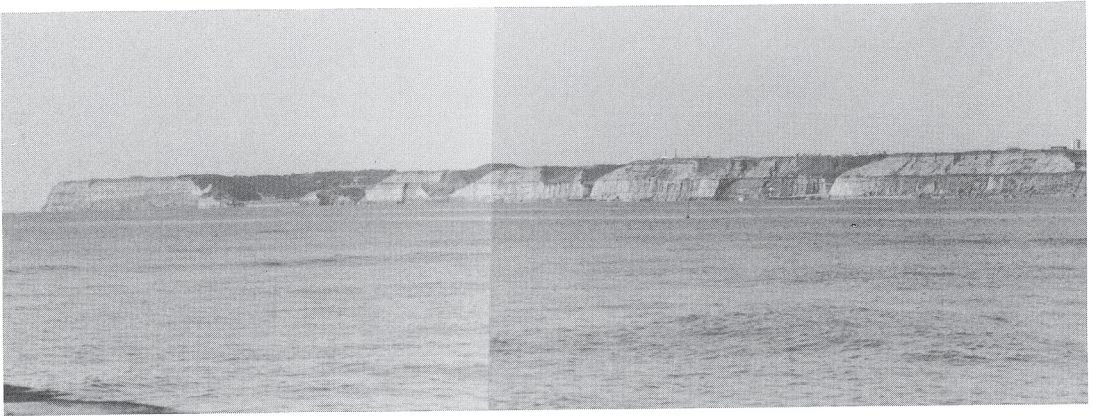
一方 岩石海岸の構成岩石自体は専ら削られ 増大・前進することはありません。海岸の後退速度や

侵食形態にも岩石固有の強度特性 例えば堆積岩では続成作用の進行状態や粒度組成などによって異なります。

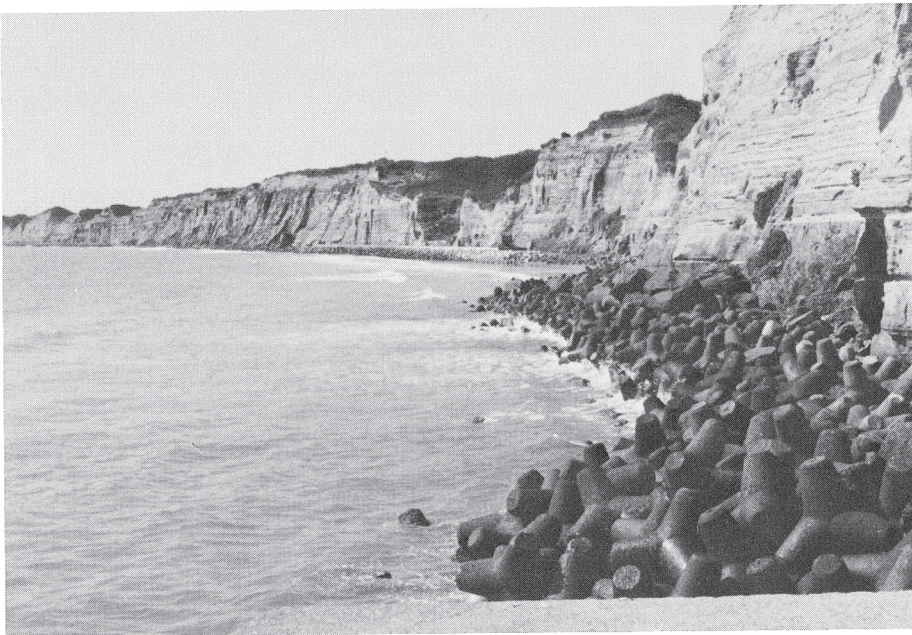
口絵写真1では現在見られる砂浜の侵食崖 同2-5では形成年代の異なる堆積岩に刻まれた海食地形を紹介することにしましょう。



1. 茨城県大洗町の鹿島灘海岸北部において見られる侵食崖 (1983年10月撮影)。不安定な崖は急速に崩されて消失するとともに 侵食から堆積傾向に転ずればこの崖の前面も海浜砂で埋積され 砂浜は復元することでしょう。なおここでは コンクリートのブロックの設置によって堆積作用の回復が図られています。



2. その下部が軟かい鮮新世の飯岡層 上部が未固結な更新世の成田層からそれぞれなる千葉県屏風ヶ浦海岸の大海食崖。この崖は汀線後退図から明らかなようにその後退速度が非常に大きなことで有名です。





3. 阿字ヶ浦南端の湾入部に見られる中新世の多賀層に刻まれた海食地形（1965年坂本撮影）。崩落したシルト礫が海食崖基部に積もり、海食を一時的に遅らせます。現在では護岸が施され下部は見えません。写真4とともに本文を参照されたい。



4. 那珂湊海岸に発達する白亜紀後期那珂湊層群の砂岩・シルト岩からなる海食地形。砂岩の部分がシルト岩のそれに比べ堅硬なためにより高まり、また大きな漂礫にも砂岩からなるものが多く見られます。



5.

銚子半島南側外川付近における鮮新世の名洗層によって不整合に覆われた中生代愛宕山層群の砂岩と被覆層が剥ぎ取られ再び海食を受ける砂岩。これらの堅硬な古期堆積岩類が分布する銚子半島は、激しい海食に抵抗して大きく海側に突出しています。

